

目 次

- 図書館長就任にあたって 1
- 学術コミュニケーションの変革を！ 3
- ご存知ですか図書館サービス< FAQ > 7
- 本学教員が学生諸君へすすめるこの1冊！ 9
- 文献データベースと検索ツールの関係 11
- お知らせ 12
 - ・ポータル研修開催
 - ・図書館ボランティア始動
 - ・本学関係者著作寄贈図書
 - ・行事等
- 分館だより（繊維学部分館） 16

図書館長就任にあたって

附属図書館長 野村 彰 夫

8月1日に村瀬前館長から附属図書館長を引き継ぎました。通常、学内推薦により「学内共同教育研究施設等管理委員会」で選出されておりましたが、今回は法人化に伴い学内の運営・組織改革の一環として附属図書館の改革も行うべく担当理事である小生が学長指名により重責を担うこととなりました。就任の挨拶まわりで、中央館をはじめ、隔地学部にある分館を見学させていただきました。小生が所属している工学部分館以外はほとんど入ったことがなく、農学、繊維、教育学部の分館は初めての訪問でした。昭和40年代に建てられたものが多く、30年以上経過して施設が古く、ひどい状態であることを認識しました。特に農学部の分館は、雨漏りや暖房機用送風機の想像を絶する騒音には驚きました。繊維分館は歴史が古い学部であることから資料も豊富で学部で苦勞して充実させているとともに見やすく整理されていることに感心しました。教育学部分館は、同じく歴史が古く、旧高遠藩で使っていた資料があり、さらに100年程前のレンガ作りの貴重な建物が保存庫として使用され、その中に古くて貴重な資料があることにも驚きでした。また経済学部内にある資料室（分館といっても過言ではない）が、可動式の集密書架により豊富な資料が整理されていることには感心しました。長年かかって学部内の努力により、これだけの資料室を構築したことに頭が下がります。

ところで、中央館や分館を訪問してみて痛切に感じましたことは、書架が図書館内のスペースを占有していて、学生が閲覧や勉強を行うスペースが少ないことです。ほとんど閲覧されることのない本やバックナンバー等の雑誌が大きな空間を占有しており、図書館の主なユーザーである学生にとって快適な空間とはなっていないのです。

各学部のトップの方々や図書館の位置づけ等について話をして次の点がわかりました。第1に、文系と

理系の先生方とは、図書館に対する考え方が違うことであります。文系の先生方は、「図書館は大学のシンボル」「古い本や資料が重要」「蔵書数が大事である」……保存図書館的な機能を求めています。一方、理系の先生方は、「研究に関連する雑誌の豊富さ」、「新しい専門書」「電子ジャーナル等の充実」等、研究に関する新しい情報機能を強く求めています。第2点は、先生方は自分の研究の立場から図書館について多く語ってくれましたが、最大のユーザーである学生の立場に立っての発言はほとんど聴くことができませんでした。

隔地学部の分館は、それぞれの学部の考え方で運営が可能であります。中央館については、利用している学部等(人文、経済、理学および共通教育センター)が複数にまたがり、その位置づけが不明瞭となっています。学生の利用状況をみると、人文、経済及び理学の1-4年生は、それぞれの学部・学年で1000~2000冊/(学年・年)の本の貸し出しを受け、他の5学部(医学、工学、繊維、農学、教育)の学生は、1年時(共通教育)のみそれぞれの学部生で1000冊/年以上の貸し出しを受け、学部に進学してからはほとんど中央館を利用していない状況であります。中央館から学生が本の貸し出しを受けているのは、延べ27,000冊/年となっています。これに対して在松学部の先生方はどの程度利用しているのだろうか? 実は利用教員数は延べ561名で僅か1094冊/年、学生の利用の1/25なのであります。このような中央館の利用状況から考えると、共通教育を学ぶ1年生と人文、経済、理学の学部生が主なユーザーとなる図書館ではないかと考えられます。中央図書館は、保存図書館的な機能、コレクションの展示イベント、地域への開放等、信州大学附属図書館としての重要な役割もありますが、最大のユーザーである学生の立場に立ってその機能を最重点に考える必要があると考えます。

一方、教員や大学院生にとって図書館に期待する役割は、専門図書や研究に関連するレファレンス機能であります。ばらばらに非効率に購入していたジャーナル雑誌に替わって、最近では電子ジャーナルが主流になりつつあります。理系だけでなく文系の先生方もその有用性を認めるようになってきているようがあります。本学では平成15年から電子ジャーナルを導入し、7~8千万円の費用をかけて、全国4位となる充実したものとなっています。平成10年度の購入雑誌数(ピーク年度)に比べ4倍(8,258タイトル)のジャーナルを見ることができるようになっています。この費用は、1千万円の国から費用と、各学部でとっていたジャーナルを取りやめ、電子ジャーナルに振り向けた5千万円と、不足分は学長裁量経費等で充填して何とか維持してきました。3年間で見直すということで平成18年度以降に向けて検討を始めています。今、電子ジャーナルで問題なのは売り手市場となっているので価格の高騰に対して打つ手がなく、購入せざるを得ない状況となっています。このまま放置しておくとも1億円の大台を突破し、先生方の研究費をさらに圧迫することになりそうです。そこで電子ジャーナルはコアジャーナルを保証する体制とし、一方でアブストラクトまで載っている二次データベースを充実させることで、全体の費用の増加を抑える必要があると考えています。9月には全教員及び大学院生に対して、必要なジャーナルや利用形態について調査を行い、平成18年度以降の電子ジャーナル(二次データベースも含む)への対応について検討を行っています。

今年度中には、図書組織(事務組織も含む)の見直しと、図書経費の予算について抜本的に検討を行う予定です。学生や教職員へのサービスを中心に検討を行い、「学生の授業料の1%を学生用図書ならびに閲覧等の環境整備にあてる」ことを目指した改革を行いたいと考えています。

Create Change

学術コミュニケーションの変革を！



信州大学では、平成15年度から3年計画により電子ジャーナルを導入しています。この計画により、平成16年度の電子ジャーナルのタイトル数は国立大学において第4位に位置することができました。しかし、昨今の外国雑誌や電子ジャーナルの価格高騰により、電子ジャーナルなどの学術情報を入手するための経費が増大し、現在の規模を維持することは非常に困難なものとなっています。

これは、大手出版社による学術雑誌の市場寡占化を背景に、価格の高騰、購読中止という悪循環に陥っていることが大きな原因であり、今後ますます厳しくなるものと考えられています。

このような状況に対抗するために、北米研究図書館協会は、研究者、学協会と連携し、新たな研究成果発表のシステムとして「SPARC」プログラムを1998年に発足させました。我が国でも、国立情報学研究所(NII)が推進する「国際学術情報流通基盤整備事業」(通称SPARC/JAPAN)が活動を開始しています。

国立大学図書館協会では、SPARC/JAPANプロジェクトを積極的に推進するためのパンフレットを作成しましたので、今回その全文を紹介いたします。

学術雑誌の価格高騰と学術コミュニケーションの危機

学術雑誌は学術研究に不可欠

今日の学術コミュニケーション・システムの起源は、1665年、英国でオックスフォードの研究者グループが創刊した *Philosophical Transactions* という学術雑誌の誕生に求めることができます。約340年前のことです。以来、今日まで学術雑誌は、研究成果公表の手段として重要な地位を占めてきました。現在では学術雑誌を含む、世界で流通する逐次刊行物は、17万誌を超えるといわれています。

価格は高騰、タイトルは半減

しかし、このように学術コミュニケーションにおいて最も重要な役割を果たしてきた学術雑誌は、近年、大手商業出版社の市場寡占化を背景とした価格高騰と購読中止の悪循環という危機にさらされています。我が国では、過去10年間で外国雑誌の受入タイトル数はほぼ半減し、このことにより研究者が必要とする学術情報が大学において入手できない事態が生じています(図1)。

電子ジャーナル時代の到来：新たな負担の重圧

一方では、この数年、学術雑誌の電子化に急速な進展がみられ、主要な学術雑誌の多くが電子ジャーナ

ル化されてきました。ところが、電子ジャーナルでは印刷、製本、配送等の経費が不要となるため価格の高騰が押さえられるかもしれないという期待は、多くの場合、冊子体との抱き合わせによる価格設定等によって裏切られ、むしろ大学側は、冊子体の購入経費と併せ、電子ジャーナルを導入するための経費負担の重圧に直面しています。

電子ジャーナル化は価格高騰問題を解決しない

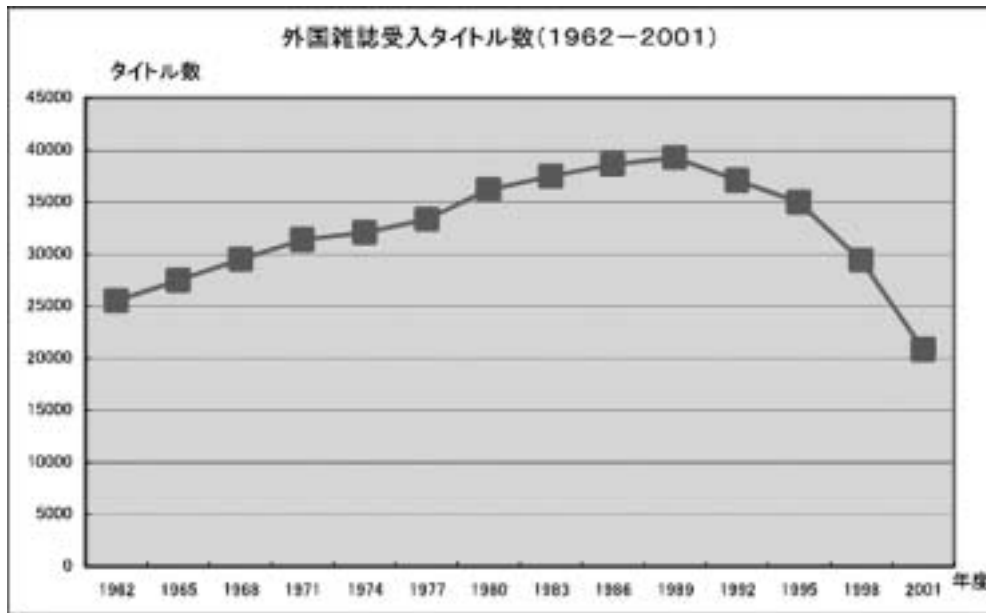
私たち国立大学図書館協議会では、学術雑誌の価格高騰と新たな電子ジャーナルの導入に対処するため、2000年に電子ジャーナルタスクフォースを立ち上げ、数十回に及ぶ大手商業出版社との協議を行ってきました。その結果、一部の出版社との間で電子ジャーナルの利用方法、価格設定などにおいて、価格高騰の部分的抑制やアクセス範囲の拡大といった大学側に有利な条件を引き出すなど、一定の成果を挙げて来ました。また、個々の大学では、電子ジャーナルの導入のため、全学的な重複雑誌の調整、予算確保などに努めています。しかし、これらの活動にもかかわらず、雑誌価格高騰の流れを押しとどめる抜本的な解決には至っていません。

研究者のコントロール機能喪失

学術コミュニケーションの危機は、雑誌価格の高騰にとどまりません。例えば、学術論文の評価、編集、流通の一連のプロセス全体が出版社のコントロールのもとに置かれ、価格設定のプロセスに研究者は関与できず、論文の著作権までもが出版社に譲渡され、研究者の手から離れてしまっているのが実態です。

このように、学術コミュニケーションのコントロールが、本来主役であるはずの研究者の手から失われていることこそ、学術コミュニケーションの危機の本質といえます。

図1. 外国雑誌受入タイトル数(1962-2001)



(国立情報学研究所の調査集計による)

学術コミュニケーションの変革を!

この危機を抜本的に打開するためには、学術コミュニケーションに対する研究者自身の意識の改革と、

このシステムを出版社主導のものから研究者中心のシステムに変革し、とりわけ大手商業出版社に頼らない自立した学術コミュニケーション・システムの確立が必要であると考えます。

大手商業出版社に対抗する競争誌の刊行

最近、新たな学術コミュニケーションの試みとして、大手商業出版社の有力な学術雑誌に対抗する新たな学術雑誌の刊行を支援する非営利の組織、SPARC (The Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) の活動が推進・提唱されています(詳細は裏面参照)。また、ピアレビュー誌でありながら、オープンアクセスを目指した非営利の出版社も現れています。さらに、欧米では「機関レポジトリ」といって、個々の研究者の原著論文を所属の大学から WEB 上で公開し、だれもが自由に閲覧できるシステムを提供する大学が増加しつつあります。

改革のための行動指針

このように、新しい改革の動きが生まれつつありますが、これらは、いずれも研究者の参加と図書館等の協力のうえで成果をあげています。以下に挙げたものは、研究者にとって可能な改革への行動指針と考えられるものです。研究者の皆さんには、可能な方法でご検討・ご協力をいただきたいと考えます。

- ・ 所属の学会で、高額な商業誌に対抗できる出版計画を検討することを勧める。
- ・ 所属の学会で、学会誌を商業出版社に委託している場合は、契約条項や、価格等を調査することを勧める。
- ・ 論文を投稿する学術雑誌が大手商業出版社のものである場合、価格、著作権、契約条項などを検証してみる。
- ・ 所属学会の出版プログラムに積極的に参加し、論文の投稿、あるいは編集委員、レビュアーを務める。
- ・ 可能であれば、商業出版社との契約で、自分の論文を自由に利用できる権利を確保するようにする。(機関レポジトリ等に掲載する権利を留保する。)
- ・ 高額雑誌の編集者で、かつ権限がある場合は、その雑誌を非営利出版社に移すか、新しいジャーナルを創刊することを検討する。
- ・ 上述の SPARC が支援する学術雑誌の中に、研究者自身の専門領域がある場合は、SPARC 誌への投稿を検討する。また、SPARC 誌のレビュアーあるいは編集委員を務める。
- ・ 学術コミュニケーションの問題や変革への提言などについて、学部や研究室で議論する場を作る。その際図書館員はその場に積極的に参加し、情報提供に協力します。

新たな挑戦— SPARC

- ・ SPARC とは、北米研究図書館協会 (ARL: Association of Research Libraries) が、1998 年に大手商業出版社の雑誌価格高騰に歯止めをかけるため、研究者、学協会と連携をとり、新たな研究成果発表のシステムとして、大手商業出版社の高額雑誌に対抗できる雑誌を刊行し、学協会の出版を支援する目的で発足したプログラムです。2002 年には、欧州で SPARC Europe が形成されました。
- ・ 現在は、代替誌 15 タイトル、学協会支援 6 団体、先端的なプロジェクト 5 団体が SPARC のパートナーとなっています。
(詳細は <http://www.arl.org/sparc/core/index.asp?page=c0> をご覧ください。)
- ・ SPARC 誌の一例を挙げると、米国化学会の Organic Letters は、Elsevier 社の Tetrahedron Letters (TL) に対抗する雑誌として刊行されています。現在、同誌は Journal Organic Chemistry に次いでイ

ンパクトファクター(論文被引用頻度数指標)が高く、TL誌をはるかに凌ぐほどに成長しています。雑誌価格は、TL誌の2003年価格に比較してほぼ3分の1に設定されており、電子ジャーナルとしても提供されています。

- ・ また、先端的なプロジェクトとしてSPARCが支援しているBioMed Centralはユニークな生物医学系出版社です。この出版社の取り扱う55以上のピアレビュー誌は、無料でアクセスでき、アーカイブも保証されています。科学研究の進展には、研究者への無料公開が不可欠であることを原則としている出版社です。
- ・ 研究者の皆さんには、大手商業出版社の雑誌価格高騰の現状をお考えいただき、SPARC誌(以下のマークが付されています)にご自身の研究領域の雑誌がありましたら、その購読をお奨めすると同時に、論文投稿にも積極的にご協力くださるようお願いいたします。



代替誌



非営利団体助成



先端的プロジェクト

SPARC/JAPANの誕生

- ・ 我が国では、国立情報学研究所(NII)が推進する「国際学術情報流通基盤整備事業」(通称SPARC/JAPAN)が活動を開始しています。(http://www.nii.ac.jp/sparc/)
- ・ この事業は、科学技術・学術審議会/デジタル研究情報基盤WG「学術情報の流通基盤の充実について(審議のまとめ)」(平成14年3月12日)の提言に基づき、日本の学協会が刊行する学術雑誌の電子化・国際化を促進し、科学技術・学術研究成果の一層の普及を図ることを目的としています。
- ・ NIIが中心となり、日本の学協会、大学図書館、科学技術振興機構(JST)のほか米欧SPARCとも連携協力しながら、国際的に立ち後れている国内学会誌(英文)の電子化を促進し、我が国の学術雑誌の国際的評価を高め、かつ適正な価格で提供できるビジネス・モデル形成の支援を行うことを主眼としています。
- ・ NIIに置かれている「国際学術情報流通基盤整備事業評議会」(議長:野依良治理化学研究所理事長)で支援策を協議し、支援対象学会誌について公募・選定が行われています。研究者の皆さんには、所属の学会等でこの動向を伝え、応募、あるいは論文投稿等に是非ご協力をお願いしたいと思います。
- ・ 大学図書館は、このSPARC/JAPANの事業計画を全面的に支援します。大学図書館は、SPARC/JAPANが支援する学協会誌の予約購読、学内における研究者への支援協力を積極的に働きかけていきたいと考えています。

(2003年10月作成)

*このリーフレットは、一部ARLのCreate Change brochureに基づいて作成しております。

*米国Create Changeの邦訳は、下記のURLをご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/isc/sparc/create/home.html>

*ご意見・ご質問は、所属大学の図書館、または下記にお寄せください。

国立大学図書館協議会

国際学術コミュニケーション特別委員会

ご存知ですか図書館サービス〈FAQ〉

図書館は、利用者の皆さんが快適に学習するための環境を提供することが大きな役割ですが、利用者からの様々な質問や要求に応えることで、研究・教育のための支援も同様に図書館の果たす重要な役割です。

さて、図書館では利用者の方々へどのようなサービスを行っているのでしょうか。カウンターによくある問合せをFAQ形式で、以下に挙げてみます。ただし、中央館・各分館によってサービス内容が異なっている場合がありますので、利用する際には事前に確認をお願いいたします。

図書館の開館時間は？

信州大学の各図書館の開館は、以下のとおりです。

	月～金曜日		土曜日	日曜日
	授業期	長期休業期		
中央館	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	10:00 - 16:00
教育学部分館	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	閉館
医学部分館	9:00 - 21:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	
工学部分館	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	
農学部分館	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	
繊維学部分館	9:00 - 20:00	9:00 - 17:00	10:00 - 16:00	

なお、試験期及び長期休業期間中は、各館で開館時間とその日程が変わりますので、開館カレンダーにご注意ください(各館のホームページにも掲載されています)。

◆館外貸出について

①学外者ですが本は借りられますか？利用証はどの図書館でも有効ですか？

県内に在住であれば学外の方にも貸出サービスをしています。利用対象は、図書館に配架されている資料となります。また、貸出冊数と期間は、図書館によって異なりますので事前にご確認ください。利用証は、中央館・各分館でも使えますが、更新は作成した館で手続きしてください。ただし、以下②～④の利用はできません。

②図書の貸出予約はどのようにすればよいですか？

OPAC(本学の蔵書検索)の画面から申し込むことができますが、貸出カウンターへ申し込んでいただいても結構です。画面から申し込む場合は、図書館利用者番号(学生は学籍番号)とパスワードを入力して手続きします。

③雑誌は貸出できますか？

雑誌は、基本的に必要な論文を閲覧あるいは複写での利用となるため、各館によって取扱いに違いがあります。中央館の場合は、図書館に配架されている雑誌が貸出対象で、所定の貸出用紙に記入して雑誌と一緒に貸出カウンターへ申し込みます。貸出冊数は3冊までで翌日返却となります。また、最新刊号は貸出(複写も)できませんのでご注意ください。

④学内図書室(研究室)等の所在資料は利用できますか？

一般的には、カウンターで所蔵先を確認して利用者が直接利用の可否を尋ねることになります。中央館では複数学部が対象となるため、他学部の利用者は学内の相互貸借と同じ扱いとなります。

⑤ビデオは貸出できますか？

ビデオやDVDは館外貸出をしていません。館内のブースでご利用ください。中央館では、留学生向けの資料も揃えていますのでご利用ください。

読みたい本のリクエストはできますか？

各館とも利用者からのリクエストを受付けています。ただし、予算などの制約から、必ずしもご要望に沿えない場合があります。なお、図書のリクエストのほか「図書館への要望」も同様に受付けていますのでお寄せください。

◆図書館間の相互協力について**①図書館にない文献の入手はどうすればよいのですか？**

図書館間相互利用(IILL)により、他大学などの図書館からコピーや現物を送ってもらうことができます。所定の申込書に記入してカウンターへ提出ください。学外の文献複写は、入手まで1週間程度を見込んでください。また、相互貸借の借用期間は郵送期間を含めて3週間程度です。

なお、相互貸借は他大学からの借用のため、利用に制限がありますので事前にカウンターで確認してください。有料です。

②他大学の図書館を利用したいのですが？

現在、ほとんどの大学図書館では、学生証などの身分証明書で利用が可能ですが、紹介状が必要な場合もあります。他大学の図書館を利用される場合は、事前にカウンターで確認しておくことをお勧めします。

レポートを作成しなければならないので、必要な資料がどこにあるのか知りたい？

学習課題やレポート・卒業論文などで必要な文献についての質問・相談に応じ、探し方について案内します。図書館資料の利用や文献の探索・入手、文献の同定や所在調査など、また一般的な質問事項に対する資料の調査・紹介も行います。学科やゼミ単位で事前にお申し込みいただければ、ガイダンスも実施いたします。お気軽にカウンターへお尋ねください。

図書館の利用者パソコンは自由に使えるのですか？

空いていれば自由に使うことができます。所定の利用票に記入のうえ、インターネットやアプリケーション・ソフトをご利用ください。なお、混んでいる場合は、利用時間が制限されますのでご協力お願いします。

自分のパソコンで図書館内からネットワークを使いたいのですが？

各自のノートパソコンを持参して、館内で無線LANからインターネットが利用できます。中央館のほか、工学部・農学部・繊維学部の各分館で利用できます。詳しくは各館カウンターへお尋ねください。

電子ジャーナルって何？

現在、雑誌は紙媒体から電子媒体へと大きく変化しています。「電子ジャーナル」は、インターネット上で閲覧する雑誌で、その多くは図版等も印刷体と同じように閲覧することができます。一部キャンパス限定のものもありますが、ほとんどのタイトルは、パスワード不要で学内どこからでも24時間利用できます。図書館では、タイトル順などのリストをWeb上に用意していますのでホームページをご覧ください。
(情報サービス係)

本学教員が学生諸君へすすめるこの1冊！

活字離れが進んでいるといわれています。図書館では、学生の皆さんにより一層本に親しんでもらうため、最近出版された図書から「先生が勧めるこの1冊!」を紹介します。今回は、渡辺先生(人文学部)と西田先生(理学部)をお願いいたしました。「面白そうだ」と感じたら、ぜひこの機会に手に取ってみてください。

●土場学他編『社会をくモデル>でみる』.....



勁草書房
2004年3月

なぜ禁煙ができないのか、なぜ人は結婚するのか、なぜ流行が起こるのか、なぜ少数政党でも大きな発言力を持つのか、なぜ国際紛争はなくなるのか。考えてみると、世の中わからないことだらけです。でも私たちは日常生活の中で、自分なりにそうした問題に何気なく答えを出しています。どのようにして？ 答えを出すための鍵は、複雑な人間や社会の特徴をうまくとらえながら、いかに単純化して考えるかにあります。つまり、私たちは意識することなく社会を単純な<モデル>を通じて考えることで、答えを出しているのです。本書は、身近な社会問題を取り上げながら、社会科学の代表的なモデルを簡単に紹介することで、社会の仕組みを説明し、私たちの身の回りの「なぜ」に答えていこうとする本です。本書を読み進めていくことで、「なぜ」に答えるコツを得、社会を見る目と論理的に考える力を養うことができます。

〈図書館所在 中央館(開架) 361.16:Sh12〉

渡辺 勉

人文学部人間情報学科
(数理社会学・計量社会学)



●大野晋著『日本語と私』.....

学生は困っていた。先生も困っていた。卒業研究のゼミがうまくいかない。原因は「日本語」だった。悩んだ先生が始めに見つけたのは、「日本語練習帳」(岩波文庫)大野晋、だった。「日本語はこんな風に使うと良いのか」「こうすれば日本語が上手になるのか」等勉強になった。そのうちに、「日本語の教室」(岩波新書)大野晋、が出た。早速買って読んでみると、日本語には「弱点」がある。日本語をちゃんとしていくことが、日本をしっかりした国にするのだ、ということが書いてあった。日本人にとって当たり前の対象である「日本語」を学者として追求し、獲得した理論を、使用者なら誰でもわかるように実践的に説いている。本当に尊敬の念を抱かないではおられない。その人となりをおこの本で知ることができる。



朝日新聞社
新潮文庫
2004年3月

自伝的エッセーであるが、大正末から昭和初期の東京の下町(深川)での小学校から始まり、(旧制)高校での疾風怒濤、学生と戦争、日本語研究者としての自覚・悩み。何よりも日本語の使い方が上手い(当たり前だけれど)。つい、味わってしまう。

〈図書館所在 中央館(開架) 289.1:O67 (朝日新聞社版)〉



西田 憲司

理学部 数理・自然情報科学科

(多元環論、可換環論、多元環のホモロジー代数的研究；コーレンシュティン性, コーエンマコーレー性)

文献データベースと検索ツールの関係

学術情報・図書館委員会 前学術情報専門部会長 太田和親

研究者が研究を進めまた論文を書くうえで、不可欠な文献検索において、最近、大きな歴史的変化が起きている。

1995年あたりまでは、研究者の文献検索は、紙媒体のジャーナルやその検索本の Chemical Abstracts (ケミアブ)などを、図書館に行き、いちいち一枚一枚ページをめくって必要な文献を探し出す方法を取っていた。大変な労力があるうえ、地方大学のように文献のそろっていないところでは、旧制帝大などに比べて著しいハンディがあった。一方、1995年あたりから急速にインターネットが普及した最近では、研究者の文献検索は、電子媒体の文献データベースである電子ジャーナルとその検索ツールである SciFinder などを使い、自室にいながらにして、一挙に短時間のうちに、必要な文献を探し出す方法を取るのが主流になってきている。したがって、電子ジャーナル(=文献データベース)と SciFinder など(=検索ツール)を導入出来さえすれば、地方大学のハンディを克服することが可能となってきた。これらを導入することによって、真に研究競争する基盤が実現されることになるのである。これらは地方大学にとって大きな福音であり、必要不可欠なものであるといえるだろう。

ただここで注意しないとイケないのは、紙媒体のジャーナルを購入することは、買い取りのため、その後の閲覧権は各図書館や個人にあるが、電子ジャーナルの場合は単にアクセス権を購入しているだけで、データベース(電子ジャーナル)そのものも購入しているのではないことである。ここに2000年前にエジプト・アレキサンドリアで図書館というものが出来て以来、社会的認知を受けた図書館という組織や仕組みを脅かす問題が潜んでいるといわれている。なぜならアクセス権を買い取れなくなった時点で、全ての電子ジャーナルを一瞬のうちに失うに等しいからである。紙媒体の時は購入をやめても、今まで買った文献図書については閲覧出来るが、電子ジャーナルではそれが出来ず、この点に大きな違いがある。したがって、継続的にデータベース(電子ジャーナルパッケージ)を購入し続けないとイケないという問題がある。これが図書館自体の存在意義を脅かす歴史的社会的な問題点である。しかしながら、電子ジャーナルはその著しい利便性から、今後益々発達していき、紙媒体のジャーナルは早晚無くなるように思う。したがって、電子ジャーナルをやめるわけにはいかないことがお判りになるであろう。

以上、電子ジャーナル(=文献データベース)の必要性が判って頂けたのではないかと思うので、次にSciFinderなど(=検索ツール)のことをお話したい。

多くの人が、電子ジャーナルを導入すればそれで十分だとお考えになっているであろう。しかし、電子ジャーナルパッケージのようなデータベースだけを購入しただけでは、自室にいながらにして、一挙に短時間のうちに、必要な文献を探し出すということは、ほとんど不可能である。これでは全くもって不十分で、使い物にならない。電子ジャーナルだけではパソコン上でいちいち膨大なページをめくって、目で必要な文献を探し出さなければならない。やはり、SciFinderなど(=検索ツール)を導入して、キーワードなどで一気に検索しないと、一挙に短時間のうちに、必要な文献を多数の雑誌から探し出すことは不可能である。SciFinderなど(=検索ツール)と電子ジャーナル(専門分野の文献データベース)は、車の両輪で、片方だけ導入しても、ほとんど使いものにならない代物となってしまう。

端的な例を挙げると、皆さん、インターネットで自分が知りたい情報を探すにはどうしているだろうか? たぶん、Yahooなど(=検索ツール)のホームページから、キーワードを入れ、それで一挙に検索していると思う。受験生が信州大学のことを知ろうと思えば、まずYahooなど(検索ツール)のホームページから、キーワードとして「信州大学」を入れ、そのホームページのありかを検索し、探し当てる。もしYahooなどのような検索ツールがなければ、信州大学のホームページを探し当てることは極端に困難になる。おそらく、まず事実上不可能だろう。そんなに手間がかかったら、受験生は諦めてしまうか、他の大学を受験するだろう。

これと全く同じで、科学の分野ではSciFinderなどの科学の分野に強い検索ツールがないと、文献を検索することは不可能に近い。ちなみにYahooなどがあればそれで科学などの専門分野の文献検索も出来ると思う方がおられるかもしれないが、一般のYahooなどでは、科学などの専門分野には全く役に立たない。やってみれば判るが、ごみのような膨大な情報が出てくるだけで全く使いものにならない。やはり、科学の分野ではSciFinderなどの科学の分野に強い専用の検索ツールが必要なことが、すぐ判る。したがって、SciFinderなどの専門分野の検索ツールが、何故必要不可欠かお判りいただけると思う。

これらの、研究者に必須の強力な専門分野の検索ツールがある大学では、今後極めて強力な研究競争力を持つことは明らかである。若い研究者がもし地方大学の教員になろうと思ったら、電子ジャーナルと検索ツールがあって文献検索が極めて容易にできるところを、今後選ぶだろう。もしもそのような設備の無い地方大学は選ばないだろう。身近の博士課程の大学院生にも聞いてみたところ、信州大学に電子ジャーナルとSciFinderがあるからこそ信州大学の博士課程に進学した、これらが無くなってもらっては困ると言われた。したがって、研究教育基盤の整った魅力ある大学、競争に勝てる電子図書館を持つ地方大学になっていることが、今後、若い優秀な教員や大学院生を集めることにつながる。そのためにも、電子ジャーナル(=文献データベース)とSciFinderなど(=検索ツール)は、信州大学に最低限の研究基盤として、継続的に備えていなければならないと考えられる。



お知らせ

国立情報学研究所・信州大学(附属図書館)・長野県共催による 「情報ポータル担当者研修」開催

国立情報学研究所・信州大学(附属図書館)・長野県の3機関共催による平成16年度「情報ポータル担当者研修-インターネット情報発信者のための情報技術と法律問題-」を、4月末の3日間にわたり信州大学旭キャンパスにおいて開催しました。この研修は、地域の情報化を推進するための人材養成を目的として、情報発信・情報ポータル構築・管理運用に係る専門的な知識と技術を修得するために実施したものです。

研修受講対象者は、長野県内の国公私立の教育・研究機関の職員及び地方公共団体の職員などで、約50名の参加者のうち地方公共団体の職員が半数以上でした。

情報発信や情報ポータルの構築などを担当している職員にとって、あるいは直接担当していない多くの職員にとっても、これらに関連する総体的知識の取得や運用に関するノウハウなどは必須である。しかし、日常業務の中で、また急激に変化する情報社会において、担当者といえどもそれらの総合的な習得は難しい。第一線で活躍している講師陣による講義と参加者の協同討議など、研修内容は受講者に極めて好評であった。



図書館ボランティア始動

信州大学附属図書館は、開かれた図書館として、地域社会との知的交流に貢献することを目標に、平成16年4月から、「図書館ボランティア」を受入れることにしました。本学附属図書館は、これまでも一般市民の利用を進めてきましたが、所蔵特別資料の公開に関して地域住民の方々にボランティア活動の場を提供することは、大学が住民にとって密接なつながりを持つ身近な存在であることを知ってもらう、よい機会になると思われます。

信州大学では信州大学山岳科学総合研究所を平成14年度に発足させました。これにあわせて、京都在住の小谷隆一氏より、国内では有数の山岳関係コレクションの寄贈を受けました。研究教育資料として活用するとともに一般への公開が、小谷氏の意向であることから、今回のボランティア活動の内容を「小谷コレクション」蔵書整理とし、12名の参加を得て5月から活動を始めました。

平成15年10月～11月に「小谷コレクション受入記念展」として一般公開しましたが、今回ボランティアに登録された方の多くが、小谷コレクションを見るのは初めてとのことでした。参加者は、若い方からベテランまで、男性5名、女性7名で、いずれも山に、また、本に深い愛情を持っていらっしゃいます。このことは、松本市内だけでなく、大町市、長野市から交通費をかけてきていただいていることにも現れています。

6月1日に開かれた「図書館ボランティア発足会」では、「小谷コレクションの部屋に入ると山へ登った気分になる。」「ボランティア同士の横のつながりが楽しい。」との声も聞かれました。ボランティアの皆さんの活動日は週に1・2回ですが、人文学部の関係教員の協力を得て、「小谷コレクション」蔵書整理が着実に進んでいます。

附属図書館は、市民の代表としてきていただいているボランティアの方々のご意見をしっかりと受けとめ、大学の持っている財産を活かす方策を検討し、本当の意味で役に立つ図書館になるよう努めることとしています。



6月1日「図書館ボランティア発足会」

本学関係者著作寄贈図書一覧 (平成15年7月～平成16年7月)

館名	書名	発行者	出版年	寄贈者	所属
中央館 医学部分館 繊維学部分館	植物に魅せられて 薬理学者の花随想 / 千葉茂俊著; 中島美香絵	信州大学医学部	2004	千葉茂俊	名誉教授
中央館 工学部分館	実用超精密加工と計測技術 : ナノテクノロジーの新展開に向けて / 中澤光男	エヌティー・エス	2003	中澤光男	名誉教授
中央館	信濃安曇族の謎を追う:どこから来て、どこへ消えたか/坂本博	近代文芸社	2003	坂本博	名誉教授
中央館	中国とJICAと私 / 黒田吉益		2004	黒田吉益	名誉教授
中央館	周辺から見た20世紀中国:日・韓・台・港・中の対話 / 横山宏章,久保亨,川島真編	中国書店	2002	久保亨	人文学部
中央館	戦後中国国民政府史の研究:1945-1949年 / 姫田光義編著	中央大学出版部	2001	久保亨	人文学部
中央館	レゲエ・トレイン ディアスポラの響き / 鈴木慎一郎	青土社	2000	鈴木慎一郎	人文学部
中央館	複数文化のために / 複数文化研究会	人文書院	1998	鈴木慎一郎	人文学部
中央館	シンコペーション ラティノ/カリビアン文化実践 / 杉浦勉,鈴木慎一郎,東琢磨	エディマン	2003	鈴木慎一郎	人文学部
中央館	1930-1940年代中国之政策過程 : 小型検討会 Workshop,2003.11.14-15)報告書	信州大学人文学部久保亨	2004	久保亨	人文学部
中央館	平成14年度信州大学地域貢献特別支援事業費プロジェクト研究成果報告書 : 松本広域における連携型地域づくり	信州大学人文学部内陸文化交流室	2003	人文学部	人文学部
中央館	インターネット技術のすべて / Kurose, J.F.他著;六浦光一他訳	ピアソン・エデュケーション	2004	六浦光一	経済学部
中央館	講説物件法 / 小野憲昭,加藤輝夫,後藤泰一	不磨書房	2004	後藤泰一	経済学部
中央館	新興副詞国家の社会福祉 資料編 :アジア・アフリカ・ラテンアメリカ / 宇佐美耕一編	アジア経済研究所	2004	金早雪	経済学部
中央館	分子磁性 新しい磁性体と反応制御/伊藤公一編	学会出版センター	1996	尾関寿美男	理学部
中央館	磁気科学 磁場が拓く物質 機能および生命科学のフロンティア / 尾関寿美男他編	アンピーシー	2002	尾関寿美男	理学部
中央館	はかってなんぼ 社会編 / 日本分析化学会近畿支部編,樋上照男,西垣順子他執筆	丸善	2004	樋上照男	理学部
中央館	看護組織論 / 井部俊子,勝原裕美子編,森田孝子他執筆 ; 看護管理学習テキスト2	日本看護協会出版会	2004	森田孝子	医学部
中央館	看護マネジメント論 / 村上美好,木村チツ子編,森田孝子他執筆 ; 看護管理学習テキスト3	日本看護協会出版会	2004	森田孝子	医学部
中央館	スキルアップとトラブル解決 : 新人ナースの看護技術 / 森田孝子著	メヂカルフレンド社	2004	森田孝子	医学部
中央館	幕末期日本におけるオランダ語号令の受容とその日本語化問題:土佐藩「徳弘家資料」所収のオランダ語号令関係資料の解読と分析 / 坂本保富	信州大学	2003	坂本保富	高等教育システムセンター
中央館	日本教育史 / 坂本保富著	創価大学出版会	2003	坂本保富	高等教育システムセンター
中央館	Understanding Japanese : A handbook for learners and teachers / O'bana, Yasuko	くろしお出版	2000	尾鼻靖子	高等教育システムセンター
中央館	幕末洋学教育史研究:土佐藩「徳弘家資料」による実態分析 / 坂本保富	高知市民図書館	2004	坂本保富	高等教育システムセンター
工学部分館	Inverse problems in engineering mechanics IV : International Symposium on Inverse Problems in Engineering Mechanics 2003 (IS P 2003), Nagano, Japan	Elsevier	2003	田中正隆	工学部
工学部分館	図解ナノテク活用技術のすべて	工業調査会	2002	三浦義正	工学部

工学部分館	電路習題洋解 上下	機械工業出版社(北京)	2002	大下 眞二郎	工学部
農学部分館	そば学大全：日本と世界のソバ食文化	平凡社	2002	俣野 敏子	名誉教授
農学部分館	ミルクのサイエンス：ミルクの新しい働き	全国農協乳業ブランド協会	1994	細野 明義	名誉教授
農学部分館	乳酸菌とヨーグルトの保健効果：長寿と健康	幸書房	2003	細野 明義	名誉教授
農学部分館	応用動物行動学の黎明	応用動物行動学会	2003	竹田 謙一	農学部
農学部分館	Land consolidation of paddy field	Association of Agriculture & Forestry Statistics	2003	木村 和弘	農学部
農学部分館	みずずかる信濃の健康志向食品	郷土出版社	2003	大谷 元	大学院農学研究科
農学部分館	The Bio-defensive function of dairy foods	Research Signpost	2002	大谷 元	大学院農学研究科
農学部分館	スプラウトレシピ：発芽を食べる育てる	創森社	2003	茅原 紘	大学院農学研究科
農学部分館	驚異の生きた発芽玄米!!	小学館スクウェア	2003	茅原 紘	大学院農学研究科
農学部分館	山に学ぶ山と生きる	信濃毎日新聞社	2003	山岳総合研究所	
農学部分館	山と里を活かす：自然と人の共存戦略	信濃毎日新聞社	2003	山岳総合研究所	

◆ 行事等 ◆

図書館主催講演会：共通テーマ『国立大学法人化後における図書館戦略』により次の講演会を開催

平成15年3月7日 講演会テーマ『大学のe-Learning化について』

平成15年3月14日 講演会テーマ『私立大学図書館の経営戦略』

平成15年3月20日 講演会テーマ『慶應義塾大学の図書館戦略』

平成15年4月～平成15年7月 共通教育授業「情報の収集と活用」への援助

平成15年7月 中央館に無線LANアクセスポイントの設置

平成15年10月31日～11月2日、平成15年11月22日～23日 小谷コレクション受入記念展

平成15年12月 第1次企画図書展終了 館長賞受賞は医学部分館

平成15年12月4日 図書館主催講演会開催：講演会テーマ『「競争」、「評価」時代の大学図書館『力』』

平成16年1月～ 第2次企画図書展スタート

平成16年4月26日～28日 情報ポータル担当者研修会

平成16年10月30日～11月1日 小谷コレクション展示会

信州大学医療技術短期大学図書室が信州大学附属図書館医学部分館に統合

本学医短図書室は、平成16年10月1日医学部分館に統合されましたのでお知らせします。なお、旧医短図書室は、保健学科閲覧室として利用できます。

**分館
だより**

..... **繊維学部分館**

昨年8月に、埼玉県立近代美術館と佐倉市立美術館の学芸員の方が、繊維学部所蔵の倉田白羊氏の「秋陽」を見に来館されました。

白羊氏ゆかりの地である佐倉市と誕生の地であるさいたま市において、「倉田白羊展」が平成16年11月から平成17年2月にかけて開催される予定です。

「秋陽」の制作年は昭和10年前後となっています。この昭和10年(1935)に白羊氏は代表作「たき火」を制作しています。前年過労のため糖尿病を再発し視力が減退するという状態の中で「たき火」が制作されました。「秋陽」もこのような状態の中で描かれたのでしょうか。このあと3年後に白羊氏は亡くなっています。

白羊氏は印象派の画家カミーユ・ピサロを愛していたとのこと。ピサロはパリ近郊イル・ド・フランス地方のポントワーズに居を構え、日常的な風景を描いた画家として知られています。白羊氏も作品は一貫して農村や自然の風景を写實的に描いています。この変わらぬ作風に対して時には硬い感じがあってうま味がない等の批評も受けたようですが、氏の絵画に対する変わらない姿勢は尊敬されました。



倉田白羊 「秋陽」

小崎軍司氏は著書「山本鼎と倉田白羊」のはしがきに「白羊の画生活は、明治二十年後半から昭和十三年に歿するまでのほぼ四十年間にわたり、この間に日本の近代美術は西欧美術の影響を受けて大きく変貌したが、白羊にいたっては、画家を志してから歿する直前まで、一貫して写実だけで通し、しかも一枚一枚のなかには借り物ではない日本人独特の詩が漂っているのを感じた」と書いています。

なお、「秋陽」は信大NOW第7号に仁科惇先生の解説で掲載されています。信州大学ホームページから見られますのでご覧ください。

(<http://www.shinshu-u.ac.jp/html/koho.html>)

花 信 No.1(通号15号) 2004年12月1日 [平成16年度1回発行]

■ 編集 花信編集委員会 (小松圭二・金井忠彦・桃井栄一・渡辺彰宏・原照子)

■ 発行 信州大学附属図書館

〒390-8621 松本市旭3-1-1

TEL 0263 (37) 2174 ・ FAX 0263 (33) 5833

URL : <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/>

E-mail : jja0141@gipac.shinshu-u.ac.jp